2000年を生きたハスの実

ハスの研究者である大賀一郎博士は、1951（昭和26）年に、千葉県の中学生と共に2000年以上前の地層からハスの実を発掘しました。この実は無事に発芽。長い眠りから目覚めた約2000年前のハスは、「大賀ハス」と名づけられ、現在は日本や海外の各地で紅色の花を咲かせています。
ハスは実の皮が厚いため、発芽能力を長期間保てます。

大ぶりな大賀ハスの花

夏の風物詩 ハス鉢の展示

昭和記念公園では、ハスの花が開花する６月下旬から約１カ月間「花ハスの鉢」を展示しています。会場のさざなみ広場には延べ100品種を超える花ハスが展示されます。鉢植えのため、近寄って細かい部分までじっくり観察することができ、さまざまな品種のハスの花を一度に見られるチャンスです。

ハス鉢を楽しむなら午前中がおすすめ

スイレンとハスの観察スポット

丸で囲ったところは、スイレンやハスが見られる場所です。花や実の様子を見に行きましょう。

こもれびの里
田んぼの近くにハスが植えられている池があります

日本庭園
池にはスイレンが植えられています

花木園
菖蒲田のそばの池にスイレンが植えられています

さざなみ広場
季節によってハス鉢が展示されます

公園のきまり

- 園内の生きものは採取したり、持ち帰らないようにしましょう。
- 立ち入ってもよい場所か確認して観察しましょう。
- スズメバチに出合ったら、立ち去るまでじっと待ちましょう。

水上の花
スイレンとハス

昭和記念公園の水辺には、
スイレンやハスの花が咲きます。
美しい姿を楽しみながら
公園を歩いてみませんか？

スイレンとハスを比べよう

スイレンやハスは、初夏から夏の水辺で花を咲かせます。どちらも水中という変化の激しい環境に生育する「水生植物」です。
花はよく似ていますが、どんな違いがあるのでしょうか。

スイレンは浮葉植物

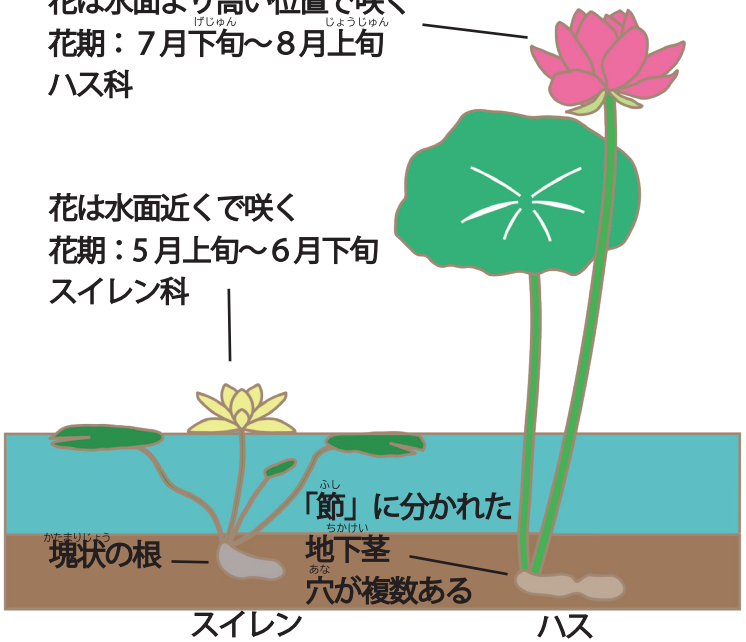
スイレンの仲間は、水生植物の中では「浮葉植物」と呼ばれます。
「浮葉植物」は水の底の土に根を張り、葉を水面に浮かべて暮らします。水の流れがあると流されてしまうので、池や沼など水の流れのない「止水」の環境がある水辺で見られます。花は水面上か、水面に近い空中へ花茎を伸ばして咲きます。花が終わると水中に沈み、実を実らせます。

ハスは抽水植物

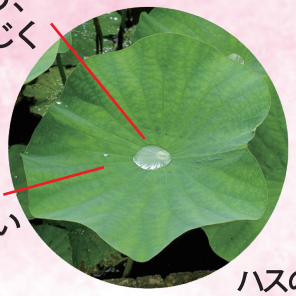
ハスは、水生植物の中では「抽水植物」と呼ばれます。
「抽水植物」も水の底の土に根を張りますが、葉や茎の一部は、水面よりも上に伸びます。ハスは池や沼など「止水」の環境で見られ、直径 20cm ほどの大きな花を咲かせます。花の中央には、雌しべの台座となる花托があります。花が終わった後、花托は実の台座となって複数の実が実ります。

スイレンの花

ハスの花



スイレンの葉



ハスの葉

モネと園芸スイレン

最近では、園芸品種のスイレンの栽培が盛んになり、家で花を楽しむ人も増えています。
スイレンの園芸品種は、原種を元に、ヨーロッパやアメリカで品種改良されてきた歴史があります。特に19世紀後半のヨーロッパは、いまでも知られる有名な品種が作られていました。
クロード・モネは、スイレンの咲く池のたたずまいを数多く描いたフランスの画家です。園芸スイレンの品種改良が進み、多くの品種が生まれた時代は、モネがスイレンを描いていた時代と重なります。

歌に出てくるハスの花

童謡の『ひらいたひらいた』の歌には、「ひらいた　ひらいた　何の花がひらいた」という歌詞があります。
開いたのは「れんげの花」ですが、ここで歌われているのは、田畑で見られるレンゲという植物の花ではなく、「ハスの花（蓮華）」のことだと言われています。
その後の歌詞は、「ひらいたとおもったら　いつのまにか　つぼんだ」と続きます。ハスの花は、早朝から咲き始め、午後には花を閉じてしまいます。花の様子が的確に歌われるほど、ハスは身近な植物です。

出典：編 尾崎行生「そだててあそぼう［78］レンコン（ハス）の絵本」農山漁村文化協会、2019年　「昭和記念公園オリジナル 植物ガイドブック 花ごよみ」一般財団法人 後援財団、2018年　川島淳平「スイレンハンドブックハンドブック」文一総合出版、2010年
監修 北村文雄「蓮　ハスを楽しむ」ネット武蔵野、2007年　「花づくり園芸館　小学館　実用ムック　こんなときどうする」小学館、2000年